

～ 米国ワイヤレス通信分野における R&D 活動について～

調査の目的

米国連邦政府機関や大学研究機関を中心とした R&D キープレーヤーを抽出、紹介するとともに、各機関・団体における活動内容についてとりまとめ、米国ワイヤレス通信分野における R&D の活動状況を概括する。

調査機関、調査方法

国防総省（DOD）、国土安全保障省（DHS）、国防高等研究局（DARPA）、国立標準技術院（NIST）、全米科学財団（NSF）、航空宇宙局（NASA）および関連主要大学研究機関を調査対象とし、文献調査に加え、連邦政府機関、主要大学の関係者及び有識者へのヒアリングを実施、これら情報を基に、整理・分析を行った。

報告書概要

連邦政府によるワイヤレス・ネットワーク R&D に対する予算額は、他の通信分野に比べると少ない。しかし、近年、軍事・国土安全といった観点に加え、米国の競争力強化や技術優位性を高めるという意味においても、ワイヤレス技術に対する注目度は高まり、予算も増加傾向にある。DARPA、NASA、DHS、NSF を中心に、ソフトウェア無線、モバイル・アドホック・ネットワーク、ワイヤレス・センサー・ネットワークといった分野に主眼を置いた活動が展開されている。このほか、東部を中心とした大学研究機関や民間機関などでも、同分野における先進的な活動が展開されている。

2007 年 3 月

N I C T 北米ワシントン事務所